令和4年度　学校評価・教職員自己評価　成果と課題

昭和町立押原中学校

1　評価の方法
肯定的な意見 「そう思う」、「ややそう思う」と否定的な意見「あまりそう思わない」「そう思わない」を％で算出した。なお、「わからない」については、職種によって判断できないことが生じるので、この項を設定した。「わからない」の回答割合は除いた。 【回答者数45名】

2　総括
多くの項目（30項目中27項目）について評価が80％以上であり、そのうち100％の達成率は8項目であった。学校評価における教職員自己評価は、良好な評価を得られた。その結果、本年度は学校教育全体に渡って、良好に実践されたと言える。
ただし、評価項目の「7、管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。」、「15、生徒が学ぶことと大切さを認識し家庭学習を自主的に進めていくよう、学習習慣の定着を行っている。」、「26、「働き方改革」に向けた必要な設備や教科備品が整備され、効率よく業務が遂行できている。」の3項目については、更なる工夫や努力が必要であり、教職員の共通理解を図る中で改善していけるよう、取り組んでいきたい。また、少数意見にも目を向け、改善のヒントがあると捉え、より良い学校運営がなされるよう、令和5年度以降に取り組んでいきたい。
今年度よりWebでの自己評価を導入したところ、配布、回答、集計等の面で業務改善となった部分が多くあった。一方でそれぞれの具体的評価内容に関しての意見（特に肯定的なもの）が、前年度までに比べ減少した。課題を明らかにすることと同様に、良かった点成果についても数値以外の言葉として明らかにすることは、学校という組織が前向きに成長していく上で大切な要素であると考える。次年度以降の自己評価について教職員の意見がより多く出されるように改善をしていきたい。

（1）学校教育目標に関すること　①学校教育目標

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
1	学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	98%	2%
2	職員の共通理解のもと、学校教育目標をふまえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	91%	9%

【考察と課題】
・高評価であり、肯定的な評価が多く、殆どの職員が「共通理解のもと学校教育目標の達成へ向けて尽力した」と考えている。
・職員間の共通理解については、学校規模が大きく人数が多いことで難しい部分もあるが、共通理解できていないと感じる部分を明らかにしながら対応する必要があると考える。
・学校教育目標や重点目標がこれからも社会地域生徒の実態に即応したものとなるように今後もしていく。

【改善策】
・共通理解できていないと感じる部分を具体的に明らかにして、その部分を改善することを職員全体の取組としていく。
・学校教育目標や重点目標の設定に際して、今後も学校運営協議会との連携を強化し、目標の設定を考えていく。

（2）　学校経営に関すること　　②教育課程管理

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
3	各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	85%	15%
4	道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	88%	12%

【考察と課題】
・概ね肯定的評価であるがNo3については昨年度と比較して評価が（5ポイント）下がった。全体的に見れば各教科の授業時間や回数を確保する努力がなされていると感じている教職員が多いが、一部時間の不足を感じている部分がある。今年度は昨年度に比べ行事等の取組時間が増加する中、教務主任を中心に見通しを持ちながら配慮をしてきた。また、できるだけ授業変更により、時間数を確保する努力が行われている。
・道徳・学活・総合に関してはおおむね計画通り進められているので、今後も教務主任と学年主任が連携を図り進められるようにする。
・短縮授業に関しては、2学期に行われることが多かった。

【改善策】
・教務主任が偏りの無いように、曜日入れ替えや授業カット、補欠・変更等をきめ細かく対応しているが、それでも対応しきれない部分については学期末の学年の時間等を活用して調整する。また、他学年から教師が来る（行く）授業が学年行事等の関係で不足しがちになるが、この点については行事を行う学年主任が授業担当者に確認をとっていく。
・授業時数の確保は最優先とし、今後も授業を大切にした取り組みを継続し、学年では道徳・学活・総合をの時間数を把握し、学年会議等で周知、徹底をしながら教務主任と調整していく。
・短縮授業の回数を減らせるように、行事など諸活動の時間確保を年度当初から計画的に行う。

③学校運営組織

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
5	学校運営にふさわしい校務分掌（組織や個人）がなされ、それぞれ適切に機能している。	84%	16%
6	教職員が相互理解や信頼関係を深め、コロナ禍においても、教育活動を工夫し協働体制で校務にあたっている。	82%	18%
7	管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	67%	33%

【考察と課題】
・分掌に関して単に年齢で決めていることはない。また、どの分掌についても適材適所や仕事負担量の大小などいろいろと考慮しながら決めている。すべてがうまくいくことは難しいが、それができるように今後も努力する必要がある。
・校務分掌や教職員の協働体制についてはおおむね肯定的評価であったが、報告・連絡・相談・確認については否定的な意見が3割を超えていた。この点については、具体的にできていない状況を確認して対応する必要がある。
・報告・連絡・相談・確認を図るため打ち合わせや会議を実施する必要があるが、内容を精査して回数や時間の削減を図れるようにする必要がある。
・アンケート結果については、Webで行ったものに関しては共有ドライブにデータがあるので、教職員の誰もがアクセスできる状態になっている。結果の考察等を踏まえ、今後どうするのかについてはきちんと示す必要がある。

【改善策】
・校務分掌についてはいろいろな要素を考慮しながら決めていく。考慮した要素やプロセスについても、「わかりやすい、伝わりやすい」ものとなるようにできる限り努力する。
・報告・連絡・相談・確認については具体的にできていない状況を洗い出し、体制や組織的な問題なのか、個人の判断の問題なのかを明確にして改善の対応する。
・打ち合わせや会議の主催者は、内容を精査して回数や時間の削減を図れるようにする。
・Webアンケートについてはデータを共有ドライブに保存することで全員がアクセスできることを周知徹底する。アンケートを行う場合は、その結果を次にどのようにいかすのか示すことまでやることを確認する。
・今後も人事評価制度の目標設定や評価・面談を通じて、分掌の職務内容や意義、取り組みの成果を確認・伝達することで、目的意識を持って職務に取り組んでいけるようにする。

④安全管理・防災

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
8	安全・防災・防犯・情報などの危機管理意識を持ち、マニュアルが整備され、適切に点検・管理・訓練を行っている。	95%	5%
9	防災計画により大規模地震災害や火災発生時の緊急体制が整備され、避難訓練や引き渡し訓練等防災教育が適切に実施されている。	96%	4%

【考察と課題】
・全体的に高い評価で有り、安全管理や防災教育が適切に実施されていると言える。
・今年度、新たに引き渡し訓練や水害想定の垂直避難訓練などを実施することで災害への備えを多様な形で対応できるようにできた。
・昨年度課題となっていた支援が必要な生徒への対応について訓練を通して確認することができた。
・防災訓練後に生徒や教職員アンケートを実施して理解や意識について確認を行い、その後の指導にいかすことができた。
・安全点検を学期1回実施しているが、それ以外の時も施設設備等の安全について意識できるように啓発する必要がある。

【改善策】
・施設設備の安全については学期1回の安全点検の際だけでなく、日常の職員打ち合わせなどを利用して啓発を行い、全職員が意識して周囲の状況を見て気づくようにしていく。
・今後も避難訓練等では、重点項目を明確にし、評価を確実に行う中で、実践力・応用力を身に付けさせていく。
・今年度は実施できなかったが、地区別協働防災訓練においても生徒自らが主体的に参加し、地域の担い手としての役割を果たせるよう、指導していきたい。

⑤特別支援教育

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
10	教職員の共通理解の基で特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	93%	7%
11	専門機関などとの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行っている。	93%	7%

【考察と課題】
・全体的に高い評価であり、特別支援教育が適切に実施されていると言える。
・特別支援教育に関わる何が負担なのかを明らかにする必要がある。
・特別支援学級の生徒に限らず、支援が必要な生徒が増加していることから、学校全体で多くの先生方で共有し考えていきたい。

【改善策】
・特別支援教育に関わる負担感を明らかにして、その解消のための方策に取り組む。
・今後も心理や福祉の専門家及び福祉支援機関や医療機関等との連携を継続していけるようにする。

⑥校内研究

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
12	本校の実態をふまえ、教育課題に対応した校内研究が企画され、意欲的、積極的、発展的に取り組んでいる。	96%	4%

【考察と課題】
・校内研のテーマに従って取り組むことができた。また、毎回の校内研は緻密で、丁寧な資料の下、研究が深められた。
・講師を招いた研究会では、多くの授業観察を通じて実践的な学級集団づくりについて学ぶことができた。
・教師の生徒対応やコミュニケーション能力の向上を目指して実践力を高める研究を進めていけるとよい。
・QUなど客観的な指標を用いて生徒の変化や学級経営を評価することやその結果を次の指導に生かすことができたので今後も継続していくとよい。
・教師間でお互いの授業実践を見合うような機会を設定してきた。今後さらにこうした機会を充実させたい。
・家庭学習の取り組みを充実させるより効果的な方策を研究・検討していけるとよい。

【改善策】
・家庭学習振り返りの日の活用方法の検討や一人一台端末の活用方法の検討を進め、家庭学習の取り組みを充実させられるようにしていく。
・今後もQU検査の分析をもとに、学級における人間関係づくりや教職員のアプローチをチームとして検討して指導にいかしていく。
・校内研究、授業づくり活動、学級集団づくり活動は、教師という専門職として、継続的に主体的に学び続けるものとして、日々研修に努める。

（３）学習指導に関すること　⑦学習指導・家庭学習⑧評価⑨キャリアパスポート

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
13	課題や疑問に感じたことを自分から調べるなど、Chromebookを効果的に活用し、興味を持たせて学習に取り組んでいる。	88%	12%
14	「めあて」で見通しを持ち、「振り返り」で成果を確認することで、「生徒の学びに向かう力を意識した授業」や「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善に前向きに取り組んでいる。	98%	2%
15	生徒が学ぶことと大切さを認識し家庭学習を自主的に進めていくよう、学習習慣の定着を行っている。	76%	24%
16	リモート授業の実施により、様々な状況に置かれている生徒に対しても学習の保障に努めている。	100%	0%
17	観点別学習状況の評価・評定を生徒や保護者に明確にし、信頼性を確保し、説明責任が果たせるよう努めている。	100%	0%
18	キャリアパスポートの効果的な利用を含め、職業観や人間関係形成・社会形成能力を育成するための指導に努めている。	80%	20%

【考察と課題】
・ICT機器が充実し、多くの先生方がICTを用いた授業に取り組んでいた。今後は、ICT機器を使うことではなく、使うことでどのような効果があるのかに焦点を当てながら授業の中に取り入れていくことを検討して行く必要がある。
・授業の中で振り返りの時間を確保するとともに、振り返りの指導を充実させる必要がある。
・No15の家庭学習の習慣については、評価が他の項目と比べやや低いなっている。また、保護者や生徒のアンケートにおいても40%以上が「たまにやる」「ほとんどやらない」と回答していることから、学校全体で家庭学習の習慣の定着について取り組む必要がある。
・生徒の学習を保証するためリモート授業を実施したことは効果的であったと言える。一方でその準備等については教職員の負担増となった部分もあるので、少ない負担でリモート授業が実施できるような体制や環境を整備する必要がある。
・指導要領全面改訂2年目ということで昨年度の経験をいかして観点別学習状況の評価評定を行うことができた。
・キャリア形成のための学習機会はいろいろな形で確保されているので、それらの学習機会とキャリアパスポートの利用とをしっかりと関連付けていく必要がある。

【改善策】
・山梨県学校指導重点に基づき、「確かな学力の育成」の向けて授業改善に積極的に取り組む。
・授業内容と家庭学習の関連付けや家庭学習でのICT機器の活用などを校内研究などと関連付けていく。
・授業案、ワークシート、ICTを活用した実践例等の資料の共有を積極的に行う。
・キャリアパスポートの活用方法について、キャリア教育担当者を中心に見直しを行う。

（４）　生徒指導に関すること　　⑩生徒指導

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
19	生徒指導目標に沿って、組織的な生徒指導体制が構築され、情報交換および指導の方向性が統一されて指導が進められている。	95%	5%
20	いじめ・問題行動や不登校の予防、早期発見や解決に向けて学年、全校体制で誠意を持って指導に取り組んでいる。	100%	0%
21	情報モラルのあり方について継続的に伝え、携帯電話やSNS等の適切な使用方法について指導がおこなわれている。	100%	0%

【考察と課題】
・全体的に高い評価であり、概ね適切な生徒指導が行われていると言える。
・いじめや問題行動、不登校への取組については、教職員の回答では肯定的100%となっているが保護者アンケートでは15%程度があまりそう思わないと回答している。いじめや人間関係のトラブルについてはアンケートや生徒、保護者からの訴えを基に対応することが多いが、教師自身が気づくことや同じ生徒が複数回訴えなくても済むような体制をさらに進めていきたい。
・校則やきまりについては、学校全体が同じ基準で指導できているかを絶えず確認する必要がある。また、校則やきまりについてはその妥当性などについて検討し、見直し等も視野に入れて指導していく。
・生徒指導の原則に沿ってチームで対応する。
・携帯電話等の使用に関わる家庭の約束事については、約15%の保護者が設けていないとアンケートに回答している。情報モラルについては、学校での指導と連動して機器を与えている保護者の監督責任についても理解してもらいながら、学校と家庭が連携して取り組んで行く必要がある。

【改善策】
・「報連相確」を徹底し、学年主任のもとに、学年生徒指導担当が中心となり、素早い対応と機能的で組織的な生徒指導体制を全校で確立しながら、「チームで指導し、チームで育てる」という意識を全員が持ち、指導体制を確立していく。
・不登校についての指導は、誠意を持って、粘り強く、丁寧な指導と同時に、生徒理解、保護者理解を継続していくことが必要である。地道で真心のある指導の積み重ねと信頼関係を築いていくことを、担任だけでなく多くの職員が関わりながら、不登校生徒の減少に力を注ぎたい。
・いじめや携帯電話のトラブル等においては、問題が起きたときには生徒間の事実関係を正確に捉えつつ、教師の指導が一方的になることがないよう、学年主任や学年生徒指導担当の意見を求めつつ対応を進めていく。

（５）　保護者・地域社会との関連に関すること　⑪情報発信⑫PTA活動・コミュニティスクール

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
22	保護者と連携して教育活動を進めるよう、HP、各種たより、お知らせ・動画配信、電話連絡・家庭訪問などで情報提供をしている。	100%	0%
23	学校開放日や有価物回収、人権講話や地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等の利用を始め、PTA活動、学校運営協議会の活性化をはかり保護者、地域との連携を深めている。	100%	0%

【考察と課題】
・どちらの項目も高い評価であり、保護者や地域社会との関連は適切に行われていると言える。
・CSに関連した人権教育、ボランティアなどの行事等の内容や他の行事との関連について前年踏襲でなく都度見直しや改善を心がける必要がある。
・ICTを活用した情報発信を行うことで家庭への連絡や生徒の様子の情報提供が円滑に、スピード感を持って、わかりやすくできた。
・授業参観や部活動壮行会、学園祭、学期に1回1週間の学校開放日等、新型コロナ感染症に対応しながら保護者が来校して生徒の様子を直接見る機会を多く設けることができた。一方で感染症対策のための受付や運営業務の増加などが課題である。

【改善策】
・来年度以降も学校開放週間を学期に1回は実施する。また、保護者や地域の方ができるだけ参観できるような形で学校行事が行えるように実施方法や運営方法を工夫していく。
・今年度同様、安心メール・学校HP・YouTube配信などを組み合わせ、より早くより多くの情報が提供できるようにして行く。
・CSであることをいかし、保護者や地域の力を借りながら協働的な活動など生徒の教育を充実させていけるようにして行きたい。

（６）　施設・設備に関すること　　⑬施設・設備

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
24	学校施設、設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	100%	0%
25	教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品など、整備・充実している。	100%	0%
26	「働き方改革」に向けた必要な設備や教科備品が整備され、効率よく業務が遂行できている。	73%	27%

【考察と課題】
・施設設備、備品の量的充実については、ほぼ良好である。
・新しく導入された施設設備、備品について有効利用ができるようにさらに取り組んで行く。
・No26について、指導用デジタル教科書は導入されているので、まだ一部の教科しか導入されていない生徒用デジタル教科書の導入について積極的に取り組めるとよい。
・「働き方改革」については、設備備品の充実だけでなくそれらを活用して働き方改革に結び付けられる教職員の資質向上や意識改革等多方面からのアプローチによって効率を高めていく必要がある。

【改善策】
・恵まれた施設・設備等を大切に使っていくことを、学校教育全般で指導していくとともに、生徒のみならず教師もそのような意識を常に持って業務にあたる。また、町予算を大事に執行するために、備品だけでなく、消耗品においても精査し、有効活用していくようにする。
・生徒用デジタル教科書の導入について、文部科学省や県などの事業を活用して導入していく。
・新しい施設設備、備品等を活用するにあたって、導入時の一時的な労力の増加にとらわれず、将来的な業務の削減を考えられるようにする。
・教職員の受け持つ分掌の業務量と時間外在校時間とを関連付けて自己の効率を判断するようにする。

（７）学校の特色に関すること　⑭学校の特色

No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
27	生徒は、楽しく学校生活を送っている。	98%	2%
28	生徒は、目標をもって学校生活を送っている。	93%	7%
29	男女混合名簿の導入、安心メールの活用によるペーパーレス化、動画配信等は本校の特色として定着してきている。	98%	2%
30	SDGsの取り組みが生徒会活動を中心に生徒の活動として浸透してきている。	95%	5%

【考察と課題】
・全体として高い評価であり押原中学校としての特色を生かした教育が実践されていると言える。
・「楽しい学校生活」については生徒アンケートで91.2%、保護者アンケートでも83.4%となっており、多くの生徒がいきいきと学校生活を送れている様子がわかる。一方で不登校や欠席の多い生徒、教室になじめない生徒がいることも事実であり、誰一人として取り残さないための取組を充実させていく必要がある。
・新たに始めた取組については、保護者生徒に定着してきている。特に情報発信の部分では94.2%の保護者が「学校の様子を知ることができる」と肯定的に回答している。今後も細かな改善をしながら継続して行けるとよい。
・SDGsの取組については一過性のものとせずに継続して行くことが必要である。また、教職員もより高い意識を持ち実践する姿を生徒に示したい。

【改善策】
・今後も学校教育目標「自ら進んで学び、たくましく生き、志を育てる生徒の育成」 を意識した取り組みを具現化していく。
・学校生活のすべての場面で協働的指導体制を一層高められるように努め、丁寧な指導と対応を常に意識して取り残される生徒がないようにしていく。
・情報発信やペーパーレス化を進めるにあたっては、保護者等の声を拾いながらよりよいものになるように絶えず改善に努める。